

きほく通信

第25号
2011年
10月23日
発行

那賀地方
患者家族会
きほく

【会長】神森和子
紀の川市中三谷
【相談室】0736(77)5161
【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371
森田方 TEL 0736(75)4413

参加された方々のお声を紹介します。

「患者さん」を笑って元気！

開催

10月22日、アバローム紀の国において患者家族60人が参加して開催されました。

神森和子会長は「私たちはひとりでは何もできません。しかし患者会として声を上げ行動することは大切なことです。人と出会い、話し合い、笑い合うことは病気の治療にも効果があると言われます。新しい出会いの中で何かを見つけて下さい。きほくは荒野の中に一点の灯りとして灯る希望の光でありたいと願っています。今日はゆっくりとお楽しみ下さい」と、挨拶がありました。

続いて、きほく設立以来継続的にご支援いただき尚且つ厚志を賜っている4名の方々に神森会長から感謝状が贈られました。受賞者は次のとおりです。

- 紀の川市 赤田和繁様
- 紀の川市 森 真隆様
- 紀の川市 山田史郎様
- 橋本市 名迫その佳様

右の方々には、会員一同からお礼申し上げます。

式典のあと、会食に移り各テーブルではそれぞれの病気の話や日々の療養などについて、協賛を呼びかけた和難連の会員らと交流が持たれました。

午後1時から落語で笑わせてもらいました。笑福亭瓶太さんの「ときそば」、桂枝會丸さんの「おばちゃん」と古歌山弁落語と古典落語、笑福亭鶴笑さんの人形を使ったパペット落語と、四席が上演されました。

出演者(右から)
桂枝會丸さん
笑福亭鶴笑さん
笑福亭瓶太さん

落語で笑い
患者を支援
難病家族会
特定疾患の対
策や患者を支援
する「紀の川市
和歌山」
患者家族会
が設立5周年を迎
えた。22日には和歌山
市湊通北の「アバ
ローム紀の国」で落語
家を招き、「患者さん
を笑って元気」を
開いた写真。

毎日新聞
和歌山版の
記事から



開いた写真。
同会のパークinson
病やウマチ、膠原
病などの引きこもりが
ちな難病や長期慢性疾
患の患者や家族約60
人が参加。落語家の桂
枝會丸さん(左)、笑福
亭鶴笑さん(中)、笑福
亭瓶太さん(右)が和歌
山弁落語や古典落語を
披露し、テンポよく大
声を張り上げて患者
を笑わせた。
同会の森田
良恒事務局
長(60)は「今
後も患者が
笑って楽しめ
る組織づく
りをしてい
たい」と話
している。
今後の同会



桃山町から参加した網膜色素変性症の女性の患者さんは「私は目が見えませんが、介助のヘルパーさんの説明でパペット落語も充分楽しめておもしろかったです。またこのような会があればぜひ参加したいです」と話してくれました。

和歌山県難病連合会員で田辺市から参加したパーキンソン病の患者さんは「こういう機会があれば出てくることがありません。来て良かったです。ひととき病気を忘れました。本当にありがとうございました」と喜んでくれました。

県の網膜色素変性症友の会(JRPS)では、この日に合わせて介助のボランティアとともに神戸や大阪から参加した患者さんは「和歌山でこんな楽しい会に参加できるとは思っていませんでした。このような機会がまたあればぜひ声をかけて下さい」と念を押されました。事務局へは夜にも鄭重なお礼の電話がありました。

NHKの「あすのWA」という夕方のニュース番組で「あすの動き」の中で紹介していただいたことで、会場へは一般の方々も午後1時からの落語を聞きに来てくれました。ご夫婦で来られた方も「私たちも病気ですが、久しぶりに楽しかったです」と喜んでくれました。

(事務局より)
当日のようすはDVDに収録しています。興味のある方は事務局までご連絡下さい。